

1

解答解説のページへ

正の整数 n に対し、 $I_n = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{d\theta}{\cos^n \theta}$ とする。

- (1) I_1 を求めよ。必要ならば $\frac{1}{\cos \theta} = \frac{1}{2} \left(\frac{\cos \theta}{1 + \sin \theta} + \frac{\cos \theta}{1 - \sin \theta} \right)$ を使ってよい。
- (2) $n \geq 3$ のとき、 I_n を I_{n-2} と n で表せ。
- (3) xyz 空間において xy 平面内の原点を中心とする半径 1 の円板を D とする。 D を底面とし、点 $(0, 0, 1)$ を頂点とする円錐を C とする。 C を平面 $x = \frac{1}{2}$ で 2 つの部分に切断したとき、小さい方を S とする。 z 軸に垂直な平面による切り口を考えて S の体積を求めよ。

2

解答解説のページへ

空間内に $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$ の直角二等辺三角形 ABC と平面 P がある。点 A は P 上にあり、点 B と点 C は P 上にはなく、 P に関して同じ側に位置している。点 B, C から P に下ろした垂線と P との交点をそれぞれ B', C' とする。

- (1) $\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} + \overrightarrow{B'B} \cdot \overrightarrow{C'C} = 0$ を示せ。
- (2) $\angle B'AC' > \frac{\pi}{2}$ を示せ。
- (3) P 上の三角形 $AB'C'$ の辺の長さは短いものから $4, \sqrt{21}, 7$ であった。このとき、辺 AB の長さを求めよ。

3

解答解説のページへ

正の整数 n の正の平方根 \sqrt{n} は整数ではなく、それを 10 進法で表すと、小数第 1 位は 0 であり、第 2 位は 0 以外の数であるとする。

- (1) このような n の中で最小のものを求めよ。
- (2) このような n を小さいものから順に並べたときに 10 番目にくるものを求めよ。

4

解答解説のページへ

正の整数 n に対して $1, 2, \dots, n$ を一列に並べた順列を考える。そのような順列は $n!$ 個ある。このうち 1 つを等確率で選んだものを (a_1, a_2, \dots, a_n) とする。この (a_1, a_2, \dots, a_n) に対し、各添字 $i=1, 2, \dots, n$ について、 a_i の値が j であるとき、その j を添字にもつ a_j の値が k であることを $a_i = j \rightarrow a_j = k$ と書くことにする。ここで、 $a_i = j \rightarrow a_j = k \rightarrow a_k = l \rightarrow \dots$ のようにたどり、それを続けていく。

例えば、 $(a_1, a_2, a_3, a_4, a_5, a_6, a_7) = (2, 5, 6, 1, 4, 3, 7)$ のとき、

$$(i) \quad a_1 = 2 \rightarrow a_2 = 5 \rightarrow a_5 = 4 \rightarrow a_4 = 1 \rightarrow a_1 = 2$$

$$(ii) \quad a_3 = 6 \rightarrow a_6 = 3 \rightarrow a_3 = 6$$

$$(iii) \quad a_7 = 7 \rightarrow a_7 = 7$$

となり、どの i から始めても列は必ず一巡する。この一巡するそれぞれの列をサイクル、列に現れる相異なる整数の個数をサイクルの長さと呼ぶ。上の (i), (ii), (iii) は長さがそれぞれ 4, 2, 1 のサイクルになっている。

(1) $n=3$ とする。選んだ順列が長さ 1 のサイクルを含む確率を求めよ。

(2) $n=4$ とする。長さ 4 のサイクルを含む順列をすべて挙げよ。

(3) n 以下の正の整数 k に対して、 $\sum_{j=k}^n \frac{1}{j} > \log(n+1) - \log k$ を示せ。

(4) n を奇数とする。選んだ順列が長さ $\frac{n+1}{2}$ 以上のサイクルを含む確率 p は、 $p > \log 2$ を満たすことを示せ。

1

問題のページへ

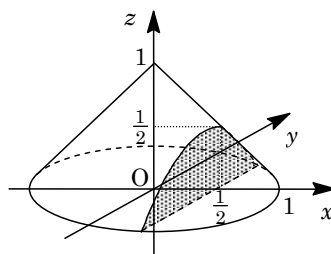
$$\begin{aligned}
 (1) \quad I_1 &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{d\theta}{\cos \theta} = \frac{1}{2} \int_0^{\frac{\pi}{3}} \left(\frac{\cos \theta}{1 + \sin \theta} + \frac{\cos \theta}{1 - \sin \theta} \right) d\theta \\
 &= \frac{1}{2} \left[\log |1 + \sin \theta| - \log |1 - \sin \theta| \right]_0^{\frac{\pi}{3}} = \frac{1}{2} \left[\log \left| \frac{1 + \sin \theta}{1 - \sin \theta} \right| \right]_0^{\frac{\pi}{3}} \\
 &= \frac{1}{2} \log \frac{2 + \sqrt{3}}{2 - \sqrt{3}} = \frac{1}{2} \log (2 + \sqrt{3})^2 = \log (2 + \sqrt{3}) \cdots \cdots \textcircled{1}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 (2) \quad I_n &= \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{d\theta}{\cos^n \theta} = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{\cos^2 \theta} \cdot \frac{1}{\cos^{n-2} \theta} d\theta \\
 &= \left[\tan \theta \cdot \frac{1}{\cos^{n-2} \theta} \right]_0^{\frac{\pi}{3}} - (n-2) \int_0^{\frac{\pi}{3}} \tan \theta \cdot \frac{-\sin \theta}{\cos^{n-1} \theta} d\theta \\
 &= \sqrt{3} \cdot 2^{n-2} - (n-2) \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{\sin^2 \theta}{\cos^n \theta} d\theta = \sqrt{3} \cdot 2^{n-2} - (n-2) \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1 - \cos^2 \theta}{\cos^n \theta} d\theta \\
 &= \sqrt{3} \cdot 2^{n-2} - (n-2) \int_0^{\frac{\pi}{3}} \left(\frac{1}{\cos^n \theta} - \frac{1}{\cos^{n-2} \theta} \right) d\theta = \sqrt{3} \cdot 2^{n-2} - (n-2)(I_n - I_{n-2})
 \end{aligned}$$

すると、 $(1+n-2)I_n = \sqrt{3} \cdot 2^{n-2} + (n-2)I_{n-2}$ となり、

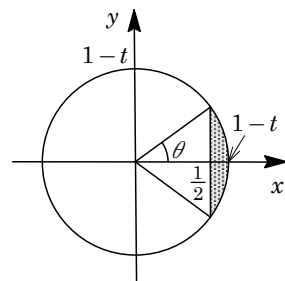
$$I_n = \frac{n-2}{n-1} I_{n-2} + \frac{\sqrt{3}}{n-1} \cdot 2^{n-2} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

(3) xy 平面内の原点を中心とする半径 1 の円板を底面とし、点 $(0, 0, 1)$ を頂点とする円錐 C の $x \geq \frac{1}{2}$ の部分 S を、平面 $z = t$ ($0 \leq t \leq \frac{1}{2}$) で切断したとき、その切り口は点 $(0, 0, t)$ を中心とする半径 $1-t$ の円板の $x \geq \frac{1}{2}$ の部分になる。



そして、右図の網点部で表される切り口について、 θ を $(1-t)\cos \theta = \frac{1}{2}$ で設定し、切り口の面積を $T(t)$ とおくと、

$$\begin{aligned}
 T(t) &= 2 \left\{ \frac{1}{2}(1-t)^2 \theta - \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{2}(1-t) \sin \theta \right\} \\
 &= (1-t)^2 \theta - \frac{1}{2}(1-t) \sin \theta = \frac{\theta}{4 \cos^2 \theta} - \frac{\sin \theta}{4 \cos \theta}
 \end{aligned}$$



すると、求める S の体積 V は、

$$V = \int_0^{\frac{1}{2}} T(t) dt$$

ここで、 $t = 1 - \frac{1}{2 \cos \theta}$ から $dt = -\frac{\sin \theta}{2 \cos^2 \theta} d\theta$ となり、また $t = 0 \rightarrow \frac{1}{2}$ のとき

$\theta = \frac{\pi}{3} \rightarrow 0$ であるので、

$$V = -\int_{\frac{\pi}{3}}^0 \left(\frac{\theta}{4\cos^2\theta} - \frac{\sin\theta}{4\cos\theta} \right) \cdot \frac{\sin\theta}{2\cos^2\theta} d\theta = \frac{1}{8} \int_0^{\frac{\pi}{3}} \left(\frac{\theta\sin\theta}{\cos^4\theta} - \frac{\sin^2\theta}{\cos^3\theta} \right) d\theta$$

$$\text{ここで, } \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{\sin^2\theta}{\cos^3\theta} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1-\cos^2\theta}{\cos^3\theta} d\theta = \int_0^{\frac{\pi}{3}} \left(\frac{1}{\cos^3\theta} - \frac{1}{\cos\theta} \right) d\theta = I_3 - I_1$$

$$\int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{\theta\sin\theta}{\cos^4\theta} d\theta = \left[\frac{\theta}{3\cos^3\theta} \right]_0^{\frac{\pi}{3}} - \frac{1}{3} \int_0^{\frac{\pi}{3}} \frac{1}{\cos^3\theta} d\theta = \frac{8}{9}\pi - \frac{1}{3}I_3$$

すると, ①②を利用して,

$$\begin{aligned} V &= \frac{1}{8} \left(\frac{8}{9}\pi - \frac{1}{3}I_3 - I_3 + I_1 \right) = \frac{\pi}{9} - \frac{1}{6}I_3 + \frac{1}{8}I_1 = \frac{\pi}{9} - \frac{1}{6} \left(\frac{1}{2}I_1 + \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot 2 \right) + \frac{1}{8}I_1 \\ &= \frac{\pi}{9} - \frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{1}{24}I_1 = \frac{\pi}{9} - \frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{1}{24} \log(2 + \sqrt{3}) \end{aligned}$$

[解説]

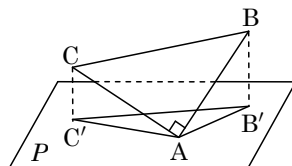
立体の体積計算についての有名問題です。(1)(2)の定積分を誘導として考えると, 中心角を設定して, 切り口の弓形の面積を求めるといった流れが見えてきます。計算はやや面倒ですが。

2

問題のページへ

- (1) 空間内に
- $\angle BAC = \frac{\pi}{2}$
- の直角二等辺三角形
- ABC
- と平面

P がある。点 A は P 上にあり、 P 上にない点 B, C から P に垂線を下ろし、 P との交点をそれぞれ B', C' とすると、



$\overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} = 0$ に注意して、

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} + \overrightarrow{B'B} \cdot \overrightarrow{C'C} &= \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} + (\overrightarrow{AB} - \overrightarrow{AB'}) \cdot (\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AC'}) \\ &= \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} + \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC'} - \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC} + \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} \\ &= 2\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} - \overrightarrow{AB} \cdot \overrightarrow{AC'} - \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC} = \overrightarrow{AB'} \cdot (\overrightarrow{AC'} - \overrightarrow{AC}) + \overrightarrow{AC'} \cdot (\overrightarrow{AB'} - \overrightarrow{AB}) \\ &= \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{CC'} + \overrightarrow{AC'} \cdot \overrightarrow{BB'} \end{aligned}$$

すると、線分 BB' と CC' はともに平面 P に垂直なので、 $\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{CC'} = \overrightarrow{AC'} \cdot \overrightarrow{BB'} = 0$ となり、 $\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} + \overrightarrow{B'B} \cdot \overrightarrow{C'C} = 0 \cdots \cdots (*)$ である。

- (2)
- $\overrightarrow{B'B}$
- と
- $\overrightarrow{C'C}$
- は同じ向きに平行なので、
- $k > 0$
- として
- $\overrightarrow{C'C} = k\overrightarrow{B'B}$
- とおくことができる。すると、(*)から、

$$\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} = -\overrightarrow{B'B} \cdot \overrightarrow{C'C} = -k|\overrightarrow{B'B}|^2 < 0$$

これより、 $\cos \angle B'AC' = \frac{\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'}}{|\overrightarrow{AB'}||\overrightarrow{AC'}|} < 0$ となり、 $\angle B'AC' > \frac{\pi}{2}$ である。

- (3) 3 辺の長さが 4,
- $\sqrt{21}$
- , 7 である
- $\triangle AB'C'$
- は、
- $\angle B'AC' > \frac{\pi}{2}$
- から最長辺
- $B'C' = 7$
- で

あり、また一般性を失うことなく $AB' = 4$, $AC' = \sqrt{21}$ とすることができるので、

$$7^2 = 4^2 + 21 - 2\overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'}, \quad \overrightarrow{AB'} \cdot \overrightarrow{AC'} = \frac{16 + 21 - 49}{2} = -6$$

すると、(*)から、 $\overrightarrow{B'B} \cdot \overrightarrow{C'C} = -(-6) = 6$ となり、 $|\overrightarrow{B'B}||\overrightarrow{C'C}| = 6$

さて、 $AB = AC = l$ とおくと、 $B'B = \sqrt{l^2 - 16}$, $C'C = \sqrt{l^2 - 21}$ となり、

$$\sqrt{l^2 - 16} \cdot \sqrt{l^2 - 21} = 6, \quad (l^2 - 16)(l^2 - 21) = 36$$

これより、 $l^4 - 37l^2 + 300 = 0$ となり、 $(l^2 - 25)(l^2 - 12) = 0$

ここで、 $l^2 > 16$ かつ $l^2 > 21$ なので $l^2 = 25$ となり、 $AB = l = 5$ である。

[解説]

空間ベクトルの図形への応用問題です。(1)が(2)へ、そして(1)と(2)が(3)へと、うまく繋がっています。

3

問題のページへ

(1) \sqrt{n} の整数部分を a とおくと, \sqrt{n} が整数でないことより,

$$a < \sqrt{n} < a+1, \quad a^2 < n < a^2 + 2a + 1$$

すなわち, $n = a^2 + k$ ($k = 1, 2, \dots, 2a$) ……①とおくことができる。

ここで, \sqrt{n} の小数第 1 位は 0 であり, 第 2 位は 0 以外の数なので,

$$a + \frac{1}{100} \leq \sqrt{n} < a + \frac{1}{10}, \quad \left(a + \frac{1}{100}\right)^2 \leq n < \left(a + \frac{1}{10}\right)^2 \dots\dots\dots②$$

①②より, $\left(a + \frac{1}{100}\right)^2 \leq a^2 + k < \left(a + \frac{1}{10}\right)^2$ となり,

$$\frac{a}{50} + \frac{1}{10000} \leq k < \frac{a}{5} + \frac{1}{100} \dots\dots\dots③$$

③を a について解くと, $\frac{a}{50} + \frac{1}{10000} \leq k$ から $a \leq 50k - \frac{1}{200}$, $k < \frac{a}{5} + \frac{1}{100}$ から

$a > 5k - \frac{1}{20}$ となるので,

$$5k - \frac{1}{20} < a \leq 50k - \frac{1}{200} \dots\dots\dots④$$

さて, a が最小となるのは $k = 1$ のときで, ④から $5 - \frac{1}{20} < a \leq 50 - \frac{1}{200}$ なので,

$$a = 5, 6, 7, \dots, 49$$

よって, 条件に当てはまる最小の n は, $n = 5^2 + 1 = 26$ である。

(2) まず, $k = 2$ のとき, ④から $10 - \frac{1}{20} < a \leq 100 - \frac{1}{200}$ なので,

$$a = 10, 11, 12, \dots, 99$$

また, $k = 3$ のとき, ④から $15 - \frac{1}{20} < a \leq 150 - \frac{1}{200}$ なので,

$$a = 15, 16, 17, \dots, 149$$

さらに, $k \geq 4$ のとき, ④より $a \geq 20$ となる。

以上より, 条件に当てはまる n を小さい方から並べていくと,

$$5^2 + 1, 6^2 + 1, 7^2 + 1, 8^2 + 1, 9^2 + 1, 10^2 + 1, 10^2 + 2, 11^2 + 1, 11^2 + 2, \\ 12^2 + 1, 12^2 + 2, \dots\dots$$

すると, 10 番目に小さいものは, $12^2 + 1 = 145$ になる。

[解説]

おもしろい整数問題です。条件を満たす n が「平方数+ちよつと」というのは感覚的にもわかりますが, その「ちよつと」を数式で評価することがポイントです。具体的には, ③すなわち④ですが。

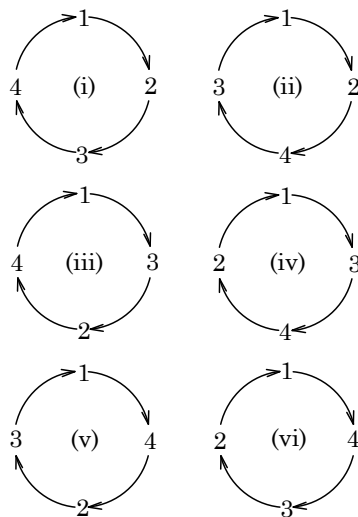
4

問題のページへ

- (1) 1, 2, 3 を一列に並べた順列 (a_1, a_2, a_3) は, $3! = 6$ 通りあり,
 $(1, 2, 3), (1, 3, 2), (2, 1, 3), (2, 3, 1), (3, 1, 2), (3, 2, 1)$
 $a_i = i$ という長さ 1 のサイクルを含むものは,
 $(1, 2, 3), (1, 3, 2), (2, 1, 3), (3, 2, 1)$
 これより, その確率は $\frac{4}{6} = \frac{2}{3}$ となる。

- (2) 1, 2, 3, 4 を一列に並べた順列 (a_1, a_2, a_3, a_4) について, $a_i = j \rightarrow a_j = k \rightarrow a_k = l \rightarrow a_l = i$ という長さ 4 のサイクルを含むものは, 右図のように 1, 2, 3, 4 のすべてをサイクリックに並べて,

- (i) $(a_1, a_2, a_3, a_4) = (2, 3, 4, 1)$
- (ii) $(a_1, a_2, a_3, a_4) = (2, 4, 1, 3)$
- (iii) $(a_1, a_2, a_3, a_4) = (3, 4, 2, 1)$
- (iv) $(a_1, a_2, a_3, a_4) = (3, 1, 4, 2)$
- (v) $(a_1, a_2, a_3, a_4) = (4, 3, 1, 2)$
- (vi) $(a_1, a_2, a_3, a_4) = (4, 1, 2, 3)$



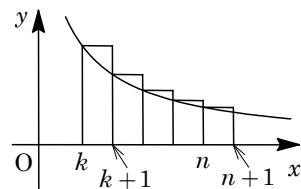
- (3) $x > 0$ において $f(x) = \frac{1}{x}$ は単調減少し, n 以下の

正の整数 k に対し, $k \leq x \leq k+1$ のとき,

$$f(k) \geq f(x) \quad (\text{等号は } x = k \text{ のときのみ})$$

すると, 右図から面積を比較して,

$$\sum_{j=k}^n \frac{1}{j} > \int_k^{n+1} \frac{1}{x} dx = [\log x]_k^{n+1} = \log(n+1) - \log k$$



- (4) 1, 2, ..., n (n は奇数) を一列に並べた順列が, 長さ r ($r \geq \frac{n+1}{2}$) のサイクルを含むとき, $n-r \leq \frac{n-1}{2}$ より, 選んだ順列 (a_1, a_2, \dots, a_n) に含まれる長さ r のサイクルは, ただ 1 つだけ存在する。

さて, (a_1, a_2, \dots, a_n) が長さ r のサイクルを含むとき, r 個の選び方が ${}_n C_r$ 通りで, それをサイクリックに並べるのが $(r-1)!$ 通りとなり, また残り $n-r$ 個の並べ方が $(n-r)!$ 通りであるので, このときの確率は,

$$\frac{{}_n C_r \cdot (r-1)! \cdot (n-r)!}{n!} = \frac{n!}{r! (n-r)!} \cdot \frac{(r-1)! \cdot (n-r)!}{n!} = \frac{1}{r}$$

よって, 選んだ順列が長さ $\frac{n+1}{2}$ 以上のサイクルを含む確率 p は, (3) の結論から,

$$p = \sum_{r=\frac{n+1}{2}}^n \frac{1}{r} > \log(n+1) - \log \frac{n+1}{2} = \log \frac{(n+1) \cdot 2}{n+1} = \log 2$$

[解説]

確率の総合問題です。具体例の(1)と(2)があるものの、題意を把握するのに時間がかかります。誘導になっている(2)において、円順列との対応を考える点がポイントです。なお、(3)は付加的な設問のため、やや雑に記しています。